

科目名	診察学応用 2							年度	2026
英語科目名	Applied Consultation and Examination 2							学期	後期
学科・学年	鍼灸科 2年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	宮本 陽平	教員の実務経験		有	実務経験の職種		鍼灸師		

【科目の目的】
 現代医学的な診察法の基本を学び、鍼灸施術に必要な診察の仕方や評価法を座学と実習を通して身につけることを目的とする。また、症例を提示することで、実践をイメージし、診察の基本や応用力を身につけることを目的とする。

【科目の概要】
 ①現代医学的な診察法の基本を復習し、鍼灸施術に活かすための診察の基礎を学ぶ。②診察の仕方や評価法を練習し、体得する。③提示された症例をもとに、診察の模擬授業を行い、診察力対応力を身につける。※授業に臨むにあたり、実習を伴う授業は、予習・復習をすることが大切である。予習をすることによって、授業中にすぐ身体が動くように準備しておくこと、復習することによって、毎回自分なりに振り返りや課題を見つけて、次回へ活かすように取り組む。

【到達目標】
 現代医学的な診察法の基本を復習し、診察の仕方や評価法を実習を通じて身につける。また、症例を提示し、ペアまたはグループで検討し、実際に取り組むことで、卒業後の臨床現場における診察力・対応力を体得する。

【授業の注意点】
 授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A	問診や医療面接が的確に・臨機応変にできる。	問診や医療面接がスムーズにできる。	問診や医療面接が問題なくできる。	問診や医療面接を時間はかかるができる。	問診や医療面接が上手くできない。
到達目標 B	鍼灸臨床の適応・不適応の知識・判断について適切に理解できる。	鍼灸臨床の適応・不適応の知識・判断について理解できる。	鍼灸臨床の適応・不適応の知識について理解している。	鍼灸臨床の適応・不適応の知識・判断について少しは理解できている。	鍼灸臨床の適応・不適応の知識・判断についての知識が乏しい。
到達目標 C	目的とする身体診察についての知識・理解と共に臨機応変な対応も理解している。	目的とする身体診察についての知識・理解が深い。	目的とする身体診察についての知識があり、理解もできる。	目的とする身体診察についての知識がある。	目的とする身体診察についての知識・理解が乏しい。
到達目標 D	目的とする身体診察が素早く・的確にできる。	目的とする身体診察がスムーズにできる。	目的とする身体診察ができる。	目的とする身体診察が時間はかかるができる。	目的とする身体診察が上手くできない。
到達目標 E	各症例に対する問診・医療面接や身体診察が素早く・的確にできる。	各症例に対する問診・医療面接や身体診察がスムーズにできる。	各症例に対する問診・医療面接や身体診察ができる。	各症例に対する問診・医療面接や身体診察が時間はかかるができる。	各症例に対する問診・医療面接や身体診察が上手くできない。

【教科書】
 担当教員が資料を作成し、毎回配布する。診察・検査法を行うための器具が必要。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】
 期末試験（筆記試験）で評価。授業の取り組む姿勢も評価に加味する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		診察学応用2			年度	2026
英語表記		Applied Consultation and Examination 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	基本的な診察・検査・測定法⑬	関節可動域の方法を学び、理解し、実施できるようになる。	1 運動器の復習	運動器の働きについて復習し、理解を深める。	2	
			2 関節可動域測定の復習	関節可動域の測定について復習し、理解を深める。		
			3 関節可動域測定の実習	関節可動域の測定を実践し、理解する。		
2	基本的な診察・検査・測定法⑭	徒手筋力検査 (MMT) の方法を学び、理解し、実施できるようになる。	1 運動器の復習	運動器の働きについて復習し、理解を深める。	2	
			2 徒手筋力検査の概要	徒手筋力検査の測定について学び、理解する。		
			3 徒手筋力検査の実習	徒手筋力検査の測定を実践し、理解する。		
3	基本的な診察・検査・測定法⑮	徒手筋力検査 (MMT) の方法を学び、理解し、実施できるようになる。	1 運動器の復習	運動器の働きについて復習し、理解を深める。	2	
			2 徒手筋力検査の復習	徒手筋力検査の測定について復習し、理解を深める。		
			3 徒手筋力検査の実習	徒手筋力検査の測定を実践し、理解する。		
4	臨床的な診察・評価 (腰下肢) ①	腰下肢痛患者の医療面接・診察・評価の方法を学び、実施 (実践) できるようになる。	1 腰痛患者の概要	腰痛患者の診察について学び、理解を深める。	2	
			2 下肢痛患者の概要	坐骨神経痛患者の診察について学び、理解を深める。		
			3 医療面接の実習	腰痛患者の医療面接を実践し、理解する。		
5	臨床的な診察・評価 (腰下肢) ②	腰下肢痛患者の医療面接・診察・評価の方法を学び、実施 (実践) できるようになる。	1 腰下肢痛患者の概要	腰下肢痛患者の診察について学び、理解を深める。	2	
			2 医療面接の実習	坐骨神経痛患者の医療面接を実践し、理解する。		
			3 診察・検査法の実習	腰痛患者の診察を実践し、理解する。		
6	臨床的な診察・評価 (腰下肢) ③	腰下肢痛患者の医療面接・診察・評価の方法を学び、実施 (実践) できるようになる。	1 腰下肢痛患者の概要	腰下肢痛患者の診察について学び、理解を深める。	2	
			2 診察・検査法の実習	坐骨神経痛患者の診察を実践し、理解する。		
			3 評価・治療計画の検討	腰下肢痛患者の評価と治療計画を学び、理解する。		
7	臨床的な診察・評価 (頸肩腕) ①	頸肩腕痛患者の医療面接・診察・評価の方法を学び、実施 (実践) できるようになる。	1 頸肩腕痛患者の概要	頸肩腕痛患者の診察について学び、理解を深める。	2	
			2 医療面接の実習	頸肩腕痛患者の医療面接を実践し、理解する。		
			3 診察・検査法の実習	頸肩腕痛患者の診察を実践し、理解する。		
8	臨床的な診察・評価 (頸肩腕) ②	頸肩腕痛患者の医療面接・診察・評価の方法を学び、実施 (実践) できるようになる。	1 頸肩腕痛患者の概要	頸肩腕痛患者の診察について学び、理解を深める。	2	
			2 医療面接の実習	頸肩腕痛患者の医療面接を実践し、理解する。		
			3 診察・検査法の実習	頸肩腕痛患者の診察を実践し、理解する。		
9	臨床的な診察・評価 (頸肩腕) ③	頸肩腕痛患者の医療面接・診察・評価の方法を学び、実施 (実践) できるようになる。	1 頸肩腕痛患者の概要	頸肩腕痛患者の診察について学び、理解を深める。	2	
			2 診察・検査法の実習	頸肩腕痛患者の診察を実践し、理解する。		
			3 評価・治療計画の検討	頸肩腕痛患者の評価と治療計画を学び、理解する。		
10	臨床的な診察・評価 (上肢) ①	上肢痛患者の医療面接・診察・評価の方法を学び、実施 (実践) できるようになる。	1 上肢痛患者の概要	上肢痛患者の診察について学び、理解を深める。	2	
			2 医療面接の実習	上肢痛患者の医療面接を実践し、理解する。		
			3 診察・検査法の実習	上肢痛患者の診察を実践し、理解する。		
11	臨床的な診察・評価 (上肢) ②	上肢痛患者の医療面接・診察・評価の方法を学び、実施 (実践) できるようになる。	1 医療面接の実習	上肢痛患者の医療面接を実践し、理解する。	2	
			2 診察・検査法の実習	上肢痛患者の診察を実践し、理解する。		
			3 評価・治療計画の検討	上肢痛患者の評価と治療計画を学び、理解する。		
12	臨床的な診察・評価 (肩関節) ①	肩関節痛患者の医療面接・診察・評価の方法を学び、実施 (実践) できるようになる。	1 肩関節痛患者の概要	肩関節痛患者の診察について学び、理解を深める。	2	
			2 医療面接の実習	肩関節痛患者の医療面接を実践し、理解する。		
			3 診察・検査法の実習	肩関節痛患者の診察を実践し、理解する。		
13	臨床的な診察・評価 (肩関節) ②	肩関節痛患者の医療面接・診察・評価の方法を学び、実施 (実践) できるようになる。	1 医療面接の実習	肩関節痛患者の医療面接を実践し、理解する。	2	
			2 診察・検査法の実習	肩関節痛患者の診察を実践し、理解する。		
			3 評価・治療計画の検討	肩関節痛患者の評価と治療計画を学び、理解する。		
14	臨床的な診察・評価 (膝関節) ①	膝関節痛患者の医療面接・診察・評価の方法を学び、実施 (実践) できるようになる。	1 膝関節痛患者の概要	膝関節痛患者の診察について学び、理解を深める。	2	
			2 医療面接の実習	膝関節痛患者の医療面接を実践し、理解する。		
			3 診察・検査法の実習	膝関節痛患者の診察を実践し、理解する。		
15	臨床的な診察・評価 (膝関節) ②	膝関節痛患者の医療面接・診察・評価の方法を学び、実施 (実践) できるようになる。	1 医療面接の実習	膝関節痛患者の医療面接を実践し、理解する。	2	
			2 診察・検査法の実習	膝関節痛患者の診察を実践し、理解する。		
			3 評価・治療計画の検討	膝関節痛患者の評価と治療計画を学び、理解する。		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等